

(5) 小学校 授業改善の特記ポイント

国 語

<国語への関心・意欲・態度>

☆単元の「目標」やその時間の「ねらい」を明確にしましょう。

◇この単元でどのようなこと（活動）に取り組むのか。＝〈活動のゴール〉

◆この単元でどのような資質・能力を身に付けるのか。＝〈学習のゴール〉

年間学習指導計画を基に、この単元はどのような資質・能力を身に付けさせるための単元なのか（目的）を確認します。その上で、教材をどのように活用して、どのような活動に取り組ませるのか（手段）や、指導の工夫を考えます。2つのゴールを明確にして、目的意識と到達後の自分のイメージをもたせて学習に取り組ませることが大切です。

（例）第4学年〔読むこと〕の単元名と副題

◇単元名「好きな登場人物を中心に物語を紹介しよう」〈活動のゴール〉

◆副題 「登場人物の人物像を複数の叙述を基に捉えよう」〈学習のゴール〉

<話す・聞く能力>

☆話し合いなど、児童に交流をさせる活動を行う場合、聞き取るべき事柄を予想させたり、判断させたりするために、その活動の目的を明確に示すようにしましょう。

（例）①(2)聞き取る事柄を予想し、必要に応じてメモを取る。

<書く能力>

☆相手や目的に応じた書き方を考える場面を設定しましょう。

相手や目的に応じて、原因や理由を挙げたり事例を挙げたり等の工夫をして、書きたいことが適切に伝わるようにする中で、その工夫の効果についても考えさせることが大切です。

（例）⑥(2) 引用したことが分かるように文末表現を工夫することができているかを確認する。

<読む能力>

☆目的に応じて、手掛りとなる叙述を文章全体から取り出し、関連させて心情を捉える学習を取り入れましょう。

物語の面白さと直接関わる登場人物の心情を読むときは、手掛りとなる叙述の見付け方を考えさせるとともに、特定の場面の叙述だけでなく、文章全体を通して散りばめられた複数の叙述を基に考えさせることが大切です。

（例）⑤(3)登場人物の心情を複数の叙述を基に捉える。

<言語についての知識・理解・技能>

☆主語と述語の指導は、児童の実態に応じて①「教師が主語を規定して、述語を問う。」、②「述語を規定して、主語を問う。」、③「主語と述語を問う。」といった段階的な指導を行うことが効果的です。

（例）⑦(1) 主語と述語の関係を的確に捉える。

社 会

<社会的事象への関心・意欲・態度>

☆各単元(小単元)の振り返りを、それまでの学習結果を活用して記述させましょう。
単元(小単元)の終末(「まとめる」学習過程)において、単元(小単元)全体の振り返りを記述させる際には、本単元(小単元)の学習で分かったことなどを根拠として、自分の今後の行動やさらに学んでみたいことについて記述させましょう。「●●の学習では、○○ということが分かった。これからは▲▲ということに気を付けて行動したい。」や「□□についてもっと調べてみたい。」などのようにまとめを書かせることで、学習意欲を持続させることにつながります。

<社会的な思考・判断・表現>

☆見学等で調べてきた事実を、「ねらい」等の項目で整理し、目的と手段などの関係から考えさせましょう。

- (例) ②(3)警察署で働く人々の仕事について調べたあとの活動例
- ①具体的な仕事内容について「仕事のねらい」の表を作成させる。
 - ②児童に警察官の話などを根拠に、完成した表について情報交換させる。
 - ③児童同士の話し合いで結論付けさせる。 など

<観察・資料活用の技能>

☆必要な情報を選んで事実を正確に読み取るように指導しましょう。
方位については、四方位と八方位を第4学年までに身に付けることになっています。東京ベーシック・ドリルを活用したり、地域の見学活動において、地図を使って方位を確認したりするなど、児童が方位を確認する学習活動を繰り返し設定していくことが重要です。

- (例) ①(1)地図学習で習得した知識を、教室外でも活用する体験の例
- ・校庭や地域の中などで、方位を確認させる。
 - ・身近な題材(北門など)を扱い、その名前と位置の関連を調べる。 など

<社会的事象についての知識・理解>

☆ 東京都の特色について地形、気候、産業、交通網、主な都市の位置、特色ある地域などの事項の指導を充実させましょう。

東京都の特色を学習する単元だけでなく、他の単元においても繰り返し調べたり確認したりすることで、児童に知識の確実な定着を図っていくことが大切です。

主な都市の位置	・自分の住んでいる区市町村の位置とその周りにある区市町村の名前 ・東京都庁や観光名所の位置
地形や気候	・神奈川県、千葉県、埼玉県、山梨県と接している。 ・東西に長く、西から東に向かって標高が低くなっている。 ・多摩川、荒川、江戸川などが流れている。 ・伊豆諸島や小笠原諸島などの島嶼部があり、地域によって気候や自然条件の違いが見られる。
産業や交通網	・日本の産業の中心であり、観光地も多く、人がたくさん集まっている。 ・東京駅、東京港や東京国際空港(羽田空港)などの交通の要所がある。 ・高速道路や新幹線などは、東京を中心に日本全国へ広がっている。
特色ある地域	・歴史や自然環境などを保護・活用しながら生活している人々や地域がある。

算 数

<算数への関心・意欲・態度>

☆自ら問題を解決し、対話の中で考えを広げ、深める指導を充実させましょう。

問題発見・解決のサイクルの中で、問題の解決に粘り強く取り組み、考えたことを基に対話的な学習を通して、広げ、深めようとする態度を育てることが大切です。

- (例) ⑥(3)角の大きさを求める学習で、課題を解決し、広げ、深めさせるために
- ・問題の解決が難しい児童には、半回転や1回転の角の大きさなど、既習事項を想起させて解決を支援する。
 - ・解決ができていない児童には、問題とは別の角をかいて考えを確かめさせたり、他のやり方でも求められるかを考えさせたりする。
 - ・角の大きさを求める式だけを発表させて、その考え方を他の児童に説明させる。また、立てた式とかいた図を対応させて考えさせる。 など

<数学的な考え方>

☆数量の関係を図などに整理し、式に表す指導を充実させましょう。

数量の関係を図に表すことは、答えを求めるための立式をするための支援になります。数量の関係を理解し、何を求めようとしているかを明確にして問題に取り組むことが大切です。

- (例) ④(1)数量の関係を理解し、求める数量や割合を明確にするために
- ・問題文から、テープ図や数直線図をかいて数量の関係を整理させる。
 - ・整理した図と「～の何倍が～」などの言葉の式を対応させながら立式をさせる。また、立てた式とかいた図を対応させて考えさせる。 など

<数量や図形についての技能>

☆答えの見当を付けてから計算したり、答えを確かめさせたりしましょう。

「答えはどれくらいになりそうですか」と問いかけ、見当を付けてから計算することや、「予想と同じくらいになりましたか」と、見当を付けた答えと照らし合わせて答えを確かめさせることが大切です。

- (例) ①(1)「58. 5-3. 34の計算」で、位取りによるまちがいを防ぐために
- ・最初に差の見当を付ける活動
『58から3をひくから、答えは55くらいなりそうだ』
 - ・計算結果を、見積もった答えと照らし合わせて確認する活動
『答えは25. 3になったから、おかしいぞ』→計算の過程を確認する。

<数量や図形についての知識・理解>

☆既習の知識を用い、理解を確かめる学習を取り入れましょう。

数量や図形について身に付けた知識を、その後の学習で用いる場面を設定し、理解を確かめて定着させていくことが大切です。

- (例) ⑤(2)単位と単位の関係についての知識を確かめ定着を図るために
- ・第2学年、第3学年で学習する長さの単位について、仕組みや関係を整理する。
 - ・gで表した重さを、小数を使ってkgで表す学習の際に、gとkgの関係を確かめる。 など

＜自然事象への関心・意欲・態度＞

☆学習を通して身に付けた知識を実際の自然や日常生活に当てはめて考えさせる学習場面の設定をしましょう。

自然事象への関心・意欲・態度をより向上させるためには、観察・実験の結果から結論を導き出してまとめを行うだけでなく、身近な道具や科学技術等との関連を図り、理科を学ぶ意義や有用性を実感させることが大切です。

(例) ⑨(4)「ゴムの働き」の学習内容をより深く理解させるために

- ・ゴムの働きを活用している身近な道具について調べる活動
- ・ゴム以外に、物を動かす働きがあるものについて調べる活動 など

＜科学的な思考・表現＞

☆観察・実験の結果をグラフや表にまとめ、それらを基に考察して、根拠を示しながら自分の考えを説明する学習場面を設定しましょう。

科学的な思考力・表現力を養うためには、観察・実験の結果をまとめたグラフや表から、全体の傾向を捉えて考察するとともに、児童に考えを説明させる学習活動を充実させることが大切です。

(例) ⑦(3)「太陽と地面の様子」の学習内容をより深く理解させるために

- ・太陽の高さやかげの長さなどについて、グラフ等にまとめさせ、太陽の動き方とかげの動き方とを関係付けて考え、分かったこと等を説明する活動
- ・午前9時から午後3時までの太陽の高さやかげの長さの変化の違いから、太陽の高さとかげの長さとの関係について考え、考察したこと等を説明する活動 など

＜観察・実験の技能＞

☆繰り返し操作をする機会、立ち戻る学習場面を設定しましょう。

観察・実験を安全に行い、信頼性の高いデータを得るために必要な技能を確実に習得するためには、繰り返し操作をする機会を設けるとともに、児童に「つまずきが見られた時点で、既習事項にもう一度立ち戻り、全ての児童が「できる」、「分かる」ようにすることが大切です。

(例) ②(1)「季節と生物」の学習内容をより深く理解させるために

- ・温度計の数を可能な限り整備するとともに、小集団で操作方法や安全な観察の仕方について話し合う活動
- ・実際の観察器具を用いて具体的な操作方法を示すとともに、東京ベーシック・ドリルを活用して、適切な操作について考える活動 など

＜自然事象についての知識・理解＞

☆観察・実験等の具体的な体験を通して、実感を伴った理解を図ることができる学習場面の設定をしましょう。

自然事象についての知識・理解の定着には、児童が自ら自然の事物・現象に働きかけ、具体的に調べることにより、実感を伴った理解を図ることが大切です。

(例) ④(2)「電気の通り道」の学習内容をより深く理解させるために

- ・「電気の通り道」と「磁石の性質」との学習を関連させたおもちゃづくり
- ・鉄・銅・アルミニウム等、磁石に付く物との混同が予想される材質を使って、電気を通す物について調べる活動 など